

自分の得意なこと、好きなことを軸に起業に踏み切る女性や、起業に関心を持つ女性が増えてい
る。国は男女含めた全体の新規開業率を現在の2倍に当たる10%に引き上げる数値目標を成長戦略
に掲げ、新年度からの支援策を打ち出す。起業を目指す女性に追い風が吹いている。(岡田夫佐子)

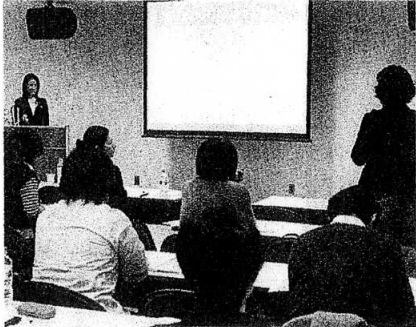
「得意」「好き」仕事に 高まる女性の起業意欲

その名も「ゆかりんとう」。
鹿児島市の管理栄養士、長友
ゆかりさん(55)が、10年来の
夢である、かりんとう工房で
売り出そうと温める商品名
だ。大好きなお菓子と、自分
の名前を掛けている。

栄養士の知識や人脈を生か
し、地場産の多彩な食材を練
り込んで栄養付加価値の高い
商品を世に出したいという。
今月15日、鹿児島市役所で
開かれた女性起業塾「エフキ
ャンパス」の卒業式でブラン
を披露し、来場者アンケート
投票による大賞を受けた。長
友さんは「今年中に工房を開
業したい」と宣言した。

エフキャンパスは、鹿児島
市が県の緊急雇用創出事業臨
時特例基金で520万円の予
算を組み、2013年度後期
に実施した女性起業家育成事
業。女性限定の起業セミナー
は初めて。

鹿児島市が初の育成塾



女性起業塾の卒業式でビジネスプランを築
表する受講生 15日、鹿児島市役所別館

自主企画講座や交流会を開
いている「鹿児島ウーマンラ
イフ研究会」が委託を受け、
13年11月から約半年にわたっ
て、ビジネスモデルの作り方
など計12回の講座を用意し
た。

第1期生は30〜40代の主婦
中心に15人。集大成となる卒
業式では、かりんとう工房の
ほかに、自宅でのパン教室や
ママ向け少人数カルチャー教
室、育児の悩みに乗るカウ
ンセリングコーチなどさまざ
まなプランが出た。

親の骨つほを墓から納骨堂
に移す改葬の際、きれいな布
でくるんで無味乾燥さを払
拭した自分の体験から、「み
とり世代が心こめて選ぶ骨つ
ほ」の事業化を描く50代もい
た。

来賓で出席した中小企業診
断士の瀬戸口晴子さんは「大
企業の男性社長には思いつか

編集委員の
窓

ないプランばかり。鹿児島を
豊かにするためがんばって」
と励ました。市産業創出課は
受講生を継続的に支援する体
制をとる。新年度は第2期生
を募集する計画だ。

「女性はまず『好きなこと、
得意なことを仕事にした』
と考える。そこから独自性が
生まれる」「スマートフォン
でもチャンスをとらえれば
男性とは違う道が開ける」
起業支援に当たる市インキ
ュベーション・マネジャーの
本田賢一さんは、女性起業の
特徴をこう分析する。